

平成 28 年度 学年 [ 中学 3 年生 ] 教科 [ 国語 ]

科目・分野	週時間数	クラス	担当者	
国語	5	A・B・C	木多・加村	
目 標	「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」能力を身につけます。 望ましい学習習慣の定着と、豊かな読書生活の確立を目指します。			
大切に育てたいもの	聞くこと・話すこと	書くこと	読むこと	言語事項
	・相手の主張を正しく聞き、自分の考えを広げること。 ・相手や目的に応じて、自分の考えをわかりやすく伝えること。	・発見や感動をもとに創作すること。 ・正確にわかりやすく書くこと。	・ものの見方、情景や人物の心情などを的確に読み取る能力。 ・豊かな読書生活を確立しようとする態度。	・「使える語彙」を増やすことで高められる、言葉への関心。

学期	考查	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
一学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>それはトンボの頭だった</li> <li>春に</li> <li>近代の俳句</li> <li>初恋</li> <li>私</li> <li>文法 助詞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌人のエッセイ（教科書外教材）を読み、詩歌を鑑賞するための「異化」という視点を得る。</li> <li>「異化」の視点から表現上の工夫に注意して詩や俳句を再び読み味わい、鑑賞文を書く。</li> <li>作品から人間や社会について思いを巡らせ、自分の意見を持つ。</li> <li>助詞の用法を理解する。</li> </ul>
	期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書を書く（書写）</li> <li>「新しい博物学」の時代</li> <li>「対話力」とは何か</li> <li>聞き書き</li> <li>読書感想文</li> <li>文法 品詞の識別</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修と文化祭に向けて、書写の作品を書く。</li> <li>論理展開の仕方の特徴を捉え、内容の理解を深める。</li> <li>対話力について考え、夏期課題の「聞き書き」につなげる。</li> <li>説明を聞き練習をすることで、聞き書きについて知る。</li> <li>目的に応じて本を読み、感想文を書く。</li> <li>紛らわしい単語の識別ができるようになる。</li> </ul>
二学期	中間	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和の詩</li> <li>旅への思い</li> <li>ディベート</li> <li>文法 文の構成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>詩の主題を読み取る。ヒロシマへの校外学習に向けて、唯一の被爆国・日本に生きる私たちの日常に潜む危うさや、現代社会のあり方について考える。</li> <li>言葉の意味や表現の特色、文や文章の構造を考えながら、全体の意味をとらえる。</li> <li>ディベートを通して、考えをまとめ聞き話す力をつける。</li> <li>文の構成を理解する（復習）。</li> </ul>
	期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌の調べ</li> <li>春の山河</li> <li>歴史は失われた過去か</li> <li>文化としての科学技術</li> <li>文法 用言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>和歌や漢詩に見られる、自然や人間に対する感じ方を理解し、自分の考えを深める。</li> <li>「歴史の記憶」の価値とはどのようなことか、文章にまとめる。</li> <li>現代の科学技術に対する筆者の意見を理解する。</li> <li>用言の用法を理解する（復習）。</li> </ul>
三学期	期末	<ul style="list-style-type: none"> <li>故郷</li> <li>言葉の力</li> <li>最後の一句</li> <li>文語文法 用言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語句や表現や時代背景に着目し、登場人物の心捉え、社会と人間の関わりを考える。身の回りの風景を描写する文章を書く。</li> <li>繰り返し用いられている語句に注意して、筆者の主張をとらえる。</li> <li>の行動に対する自分の考えをもつ。</li> <li>文語文法の基礎を知る。</li> </ul>
評 価 の 方 法		定期考查・提出物・授業態度・学習意欲・表現力などをみて評価します。	
学習活動の特徴		基本的にはグループ（5～6人班）形式。時には発表形式・講義形式もとります。	
授 業 の 形 態		クラス単位の授業	
使 用 教 科 書		伝え合う言葉 中学国語3（教育出版）	
使 用 副 教 材		<ul style="list-style-type: none"> <li>「新中学問題集」（教育開発出版）</li> <li>「国語活用資料集」（新学社）</li> <li>「文法ノート」（新学社）</li> <li>「常用漢字ダブルクリア」（尚文出版）</li> <li>「読書ノート」（文芸社）</li> <li>「新しい国語のワーク」（秀学社）</li> </ul>	
用 意 す る も の		教科書・ノート・国語辞典・ワーク・資料集	
備 考		小テスト・書き取りテスト・読書ノートなどに真剣に取り組むこと。	